

対

吉田勝美 聖マリアンナ医科大学教授

これからの健診は 生涯にわたる健康増進に



吉田勝美 聖マリアンナ医科大学教授

「常にすばらしい考えてすね。つまり、「生活の質」という考え方を健診の中に取り入れると。」

健診は「住民基盤で、職域と連携」という流れが出てくる。

吉田教授 おっしゃるとおりです。トータルに人間の健康を考える時、生活習慣と生活機能の2つの側面で見えるべきだ、というのが私の意見です。生活習慣病対策は、もちろん生命予後という点では重要ですが、しかし日常生活という点からは生活機能病対策が

山内常務 そのような健診が老い保健康法の保健事業としてできるようなこと、これは面白いですね。そうした流れが出てくると、生涯にわたってそれぞれの年齢にあった健診項目を実施する。さらに、個人情報保護など、いろいろな問題をクリアしていくのに、クリアしやすい環境ができてくるのではないかと。そうすると、しっかりと個人情報を留意しながら、健診情報を健康増進に活用しやすい方向が出てくると思います。この点でも、健診の役割は大きいと思います。

山内常務 最近、職域と地域の垣根がはつきりなくなっていますね。就労の形態が、定年まで同じ会社で働

吉田教授 同感です。今までのように、事業所があつてそこに働いている人に健診を提供するという形が崩れて、住民基盤において職域と連携していくという流れが出てくる。その方がいいと思います。

吉田教授 ところで、最近遵法という言葉と個人情報保護という言葉が粗悪な健診の「隠れ蓑」としてさかんに使われるようになってきているので、それはどういふことかという、健診を実施するに当たって、住民や労働者が求めている健康に対して何をすかという視点が欠落して、法律に書かれていることだけを守る、それ以上は何かをもしないといった風潮が強くなっているのです。しかしその真意は、健診の経費削減で

経費という言葉を出すと嫌がられるから、遵法と個人情報保護という言葉を使っている。しかしその前に出すと嫌がられるから、遵法と個人情報保護という言葉を使っている。しかしその前に出すと嫌がられるから、遵法と個人情報保護という言葉を使っている。しかしその前に出すと嫌がられるから、遵法と個人情報保護という言葉を使っている。

「健診自己チェック」で自分の検査値を経時的に記入してチェックする



「生活習慣病」と「生活機能病」を相手にした健診を。

吉田教授 これからの健診として次に期待したいのが、「生活機能病」ですね。

生活習慣病は、確かに日本人の健康寿命に大きな影響を及ぼしていますし、今回の指針が生活習慣病対策を柱にしていることは私も賛成です。しかし、それは私も賛成です。しかし、それは私も賛成です。

山内常務 生活機能病も含めた健診を、というのは非

山内常務 生活機能病も含めた健診を、というのは非

山内常務 生活機能病も含めた健診を、というのは非

山内常務 生活機能病も含めた健診を、というのは非

山内常務 生活機能病も含めた健診を、というのは非

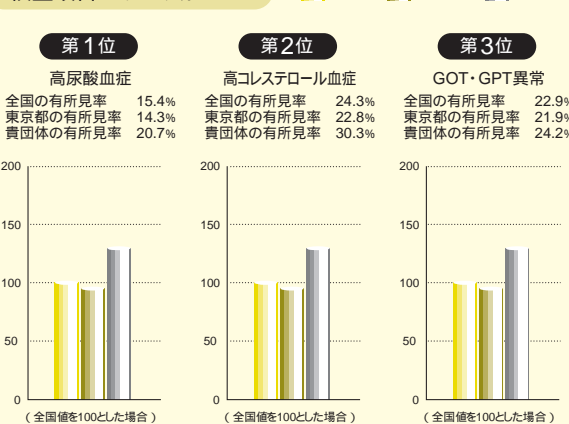
山内常務 生活機能病も含めた健診を、というのは非

山内常務 生活機能病も含めた健診を、というのは非

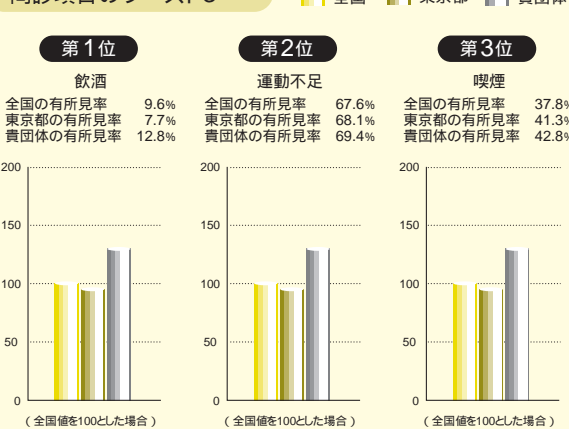
山内常務 生活機能病も含めた健診を、というのは非

『地域・職域診断サービス』で地域や職域の健康課題を明らかにする

検査項目のワースト3



問診項目のワースト3



コメント

貴団体の健康負担として、高尿酸血症、高コレステロール血症、GOT・GPT異常が重要であり、これらの改善にむけ、

- ・節度ある飲酒
- ・運動
- ・食生活の改善

を旨とした集団的アプローチが期待されます。

また、健康リスク要因として、飲酒、運動不足、喫煙が明らかにされています。

以上より、貴団体の健康対策として、飲酒の健康影響について知識を普及させるため、ポスターの掲示やキャンペーンを実施する。日常生活のなかで意識して体を動かすように(例えば、エレベータより階段を利用するように、通勤は自動車より電車やバスを利用するなど)呼びかける。休憩時間を利用して、手軽にできる運動プログラムを提供する。同好会やクラブをつくり、趣味的活動を広げるを提案いたします。

なお、健康診断、保健指導、その他各種健康対策につきましては、予防医学事業中央会の各都府県支部まで御相談下さい。